



◆Topic◆ 大口をたたいてみては? ~目標を言葉にする~

新たな学年がスタートして1ヶ月以上が過ぎました。この1ヶ月はどうでしたか? 新学年を迎えるなど人生の節目では気持ちを新たにして「目標」を持つことが大切です。サッカーの本田圭佑選手は知っていますね。彼は大きな**目標を公言**することで有名です。そしてその通りになるよう努力をします。実際苦勞はしているものの、立派な成果を残しています。そんな本田選手が次のようなコメントをしています。

「極端に言うと、僕の場合、無理をして先に人格を作っちゃうんですよ。ヒーローとしての人格を作って、普段からそう振る舞うようにする。それを続けていたら、自分の本物と重なるんですよ。作った人格が、本当の人格になるんです。そうしたらほんまにカッコイイ本田圭佑ができあがるんですよ。だから、一日一日が本当に大切になってくるんです。未来が誰にも分からない中で、どれだけ自分を信じてやれるか。」(by 本田圭佑選手)

本田選手は(無理をしてでも)なりたいたい自分像(ヒーローのイメージ)を先に設定して公言し、そうならなければいけない状況に自分を追い込んでしまうのです。これは有名な選手であればあるほど大変な事態です。できなかつたら「デカイ口たたきやがって」「なんだ口だけか?」といくらでも非難されます。でも彼はあえて自分をその状況に追い込むことで長い期間世界を舞台に活躍を続けているのです。

さてみなさんは目標を掲げて生活をしていますか?ほんの些細なことでも目標を設定して生活することは人生において重要です。なぜならそれが積み重なって将来の自分ができあがるのですから。ほんの目先のことでもいいので「次の小テストは満点取る」とか「中間考査で〇〇番以内に入る」など**今の自分より少し上の状態(カッコイイ自分)を目標に設定**し、それを言葉にしてみてもうどうでしょう。家族や友達に公言するのです。次にそれができたらもっと大きな目標を設定し、将来の目標を公言してみましょう。「〇〇大学に入る」「会社をおこしてお金持ちになる」など、**大口をたたいて自分を追い込んでみる**。勇気をもってやってみませんか?人生変わるかもしれませんよ。いや変えてみましょうよ。(文責:岡崎)

『3年の窓』 第1回全統マーク模試を終えて

高校生活最後のスポーツ交流大会が終わり、部活動でも引退を迎える生徒も多いのではないのでしょうか。皆さんは受験勉強を始められていますか。センター試験まで残り250日に近づいて来ました。現在進行中の授業の予習や復習、課題に加えて、センター試験や2次試験に向けての学習を進めていく必要があります。やるべきことはたくさんあります。ただやることは単純です。まずは基礎基本を固めましょう。部活動の地道な基礎練習が後々の試合で役立つように、勉強も単語や語句を覚え演習を重ねることで、試験にてその力を発揮できます。まだ始められていない人はこの3年生の春こそ始めましょう。来年の春に笑顔で卒業するために、頑張った自分を誇れるように今頑張ろう。

さて、5月6日GW最終日に受けたマーク模試の結果はどうでしたか?志望校合格基準やこれまでの自身の勉強の過程を考えて妥当な得点でしたか。

この結果に落ち込んで、「できない」「もう自分はだめだ」と思っていないですか?まだまだここからです。マーク試験の点数は数日では簡単に上がりません。何カ月も継続した学習がある日ぱっと花を咲かせるのです。センター試験は1月です。12月にググッと成績が急上昇する生徒は何人もいます。ただその生徒たちの多くは、4月から粘り強く学習を続け、10月ごろに少しずつ上がり始め、上昇の12月を迎えます。

ここからは夏までは「継続した基礎基本の受験学習」に取り組んでください。あきらめず努力することで自分の進路を勝ち取りましょう。(文責:渡邊完)

『2年の窓』 2年生の取り組み方

2年生に進級して、多治見高校での学習の取り組み方についても分かってきた頃だと思います。今回は日々の学習に欠かせない、小テストについて考えてみたいと思います。

様々な教科で小テストが行われると、それに向けて自宅や休み時間に単語帳などをめくることが増えてくると思います。学習習慣づけという意味では小テストの果たす意義は大きいですし、その積み重ねがやがて成果にもなることでしょう。

しかしここで考えてほしいのは、「小テストに合格する」こと自体を目的にしているませんか？ということです。受かるために勉強するのは大切ですが、その場しのぎをして、「受かったからいいや」と考えてその翌日には忘れて、というのでははっきり言ってその作業は時間の無駄ですし、ただ「面倒な小テストをこなした」だけでしかありません。

「小テストに合格する」ことは、知識を定着させるための手段であって、それ自体が目的ではありません。極端なことを言えば、

「その場で一時的に叩き込んで10点取ったけど、翌週に同じ問題を出されても2点分しか答えられない。」

よりは、

「その時は7点しか取れなかったけど、同じ問題を翌週や1か月後に出されてもそのうち7点分の問題は間違えないぐらい定着した」

方が価値のある学習だと思います。

そうすれば、次に復習すべき部分はできなかった残りの3点分ということになります。その場しのぎではなく、長期的な目線で学習に取り組む方が効率も成果も確実に上がるのではないのでしょうか。

2年生になって学習内容も増えてくると、闇雲にやればどうにかなる訳ではありません。まずは日頃の学習に無駄はないか考えてみるのはいかがでしょうか。

(文責：安藤)

『1年の窓』 2021年からの

『大学入学共通テスト』

高校1年生である皆さんの学年から大学入試が大きく変わることは当然知っていますね。

現在行われている「大学入試センター試験」は、マーク式問題のみでしたが、皆さんから受験する2021年実施予定の「大学入学共通テスト」では、国語と数学で記述式問題も課せられることになっています。知識の機械的な暗記などで対処できるものではなく、知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力を問う内容になっています。マーク式問題もこれまで通り出題されますが、その内容は大きく変わり、複数の資料文を素早く読み解き、授業で身につけた知識と知識をつなげて深く思考することが求められるような問題が出題されるようになります。

読解力や論理的思考力は、短期間で簡単に身につくものではありません。高校1年生のうちから、ただ問題をこなすだけではなく、「なぜ？」「ほかには？」などと考えながら学習に取り組むことが重要です。問題を解く際には正解かどうかだけでなく「なぜこうなるのか」「ほかの解き方はないか」「別の説明の仕方はあるか」と考えることで思考力が高まります。また、書籍や新聞を読む習慣を身につけることも重要になるでしょう。複数の資料を読み解き、情報を統合、考察する力が重視されてきます。新聞や書籍を通して多面的・多角的に考える機会を増やしましょう。受験勉強は、高3になってからではなく、高1から3年間を通して行うものと考えて行動してください。

(文責：西崎)

